

## 平成29年度碧南市市民活動センター指定管理者審査委員会 会議録

※会議議題関係部分のみ記録

日 時：平成29年6月9日（金）9時30分～

場 所：へきなん福祉センターあいくる 会議室1

出席者：審査委員6名

【松井高善、金子潤、板倉了次、永坂幸子、小笠原保、遠山隆夫】

：事務局3名【伊藤正博、河原睦、杉浦紗里子】

：説明者1名【市民活動センター長 大野裕史】

傍聴者：なし

### 会議内容

#### 1 あいさつ

新委員紹介と委員長あいさつ

#### 2 議題

##### (1) 平成28年度市民活動センター実績報告及び決算について

大野センター長より資料にもとづき説明

審査委員：愛知ネットの管理費全体の2分の1を、指定管理を行っている6つのセンターで割ったものが一般管理費ということによろしいか。

説明者：いいえ。全額を6つのセンターで割った分のうち、こちらで賄える額を市民活動センターでもっている。残額は他のセンターへ配分している。

審査委員：勤務体制はどのようになっているか。

説明者：愛知ネットは本部に勤めている職員は月給制であり、その他の職員は時給制である。したがって碧南市市民活動センターのスタッフは全員時給制である。単年度契約であるため全員正規職員の扱いであるが、社会的にみるとパート6名。ただし現在は5名（1名が5月末で退職し、募集をかけている）。朝9時から夜9時までの勤務で2交代制。毎月の初めに勤務予定を確認し調整を行っている。

審査委員：他のセンターと比較して、碧南市の特徴はあるか。

説明者：碧南市は比較的裕福であるため皆さんあまり困っていない。困っている地域ほど市民活動やボランティア活動が活発である。NPO法人の数も碧南市は少なく、全国平均でみると愛知県は1番少ない。碧南市市民活動センターに登録されているNPO法人も少ない。ただしNPO法人ではないボランティア団体で当センターに登録している団体は200程度あり、そのうち頻繁に当センターに訪問されるのは50団体程度である。毎年7月にあいくるで開催される、あいくるまつりに出展する団体が増えてきていることから、徐々に活動が活発になっていると感じる。

ミーティングをする団体が少なくなると活動が衰退していくのではないかと懸念していたところ、あいくるの会議室を無料で貸していただけるようになった。ミーティングの数も回復してきた。他市と比較しても引けをとっていないように思う。

審査委員：色々な会議などに参加すると車座集会は今推奨されている。車座の方式はどこから持ってきたのか。

説明者：車座集会は随分前から行っている。

審査委員：事業収入が比較的額が少ないのだが、他のセンターも同じようか。

説明者：はい。事業を行っているため、収入は少ない。他のセンターは印刷代など有料で行っているところもある。

審査委員：素晴らしい事を行っているのに利益は出してはダメなのか。

説明者：ダメではないが、指定管理を受けるときに利益を目的にしないようにという話があったため。

## (2) 平成29年度市民活動センター実績報告及び予算について

大野センター長より資料にもとづき説明。

審査委員：今年から初めた新しい事業や、昨年までで中止した事業、やり方を大幅に変更した事業はあるか。

説明者：昨年初めて行った事業は「愛フェス（愛知県各市町のボランティア団体が集まるファンディングイベント）」である。今年も参加する

予定である。また、へきなん自転車散歩は今年で3年目だが、今年はやり方を変更する予定である。今年から初めるものは、「災害への備えを学ぶ会」である。今年度は新川小学校の避難所運営マニュアルを作成していく。

審査委員：災害への備えを学ぶ会は新川地区だけ行うのか。

説明者：今年度は新川地区だが、来年以降は他の地区でも行っていきたい。

審査委員：災害はいつ訪れるか分からないため、他地区も早めに行っていただきたい。

説明者：はい。

審査委員：イベントやまちづくりを行っていくにあたって、お年寄りと子供がいつもキーワードだと思っている。

説明者：7月2日に行われるあいくつまつりはまさにその通りだと思う。未就学の子から中学生まで集まると両親や祖父母と一緒にくることになる。一緒に体験する催しもある。興味があれば運営側にも回っていただきたい。

### 3 その他 特になし